

産科婦人科学

分野責任者 三 橋 暁
学年 6 学年

I. 前 文

3学年時の系統講義で履修した発生・解剖学，生殖内分泌学，周産期医学，婦人科腫瘍学，更年期医学，感染症その他について集中的に効率よく復習する。

II. 担当教員

三 橋 暁 (産科婦人科学)
成 瀬 勝 彦 (産科婦人科学)
河原井 麗 正 (産科婦人科学)
鈴 木 達 也 (リプロダクションセンター)
柴 田 英 治 (総合周産期母子医療センター)
多 田 和 美 (総合周産期母子医療センター)

III. 学修の到達目標

すでに履修した系統講義の内容，臨床実習での経験を踏まえ，病態，成因を理解し，診断のための検査法，治療法，予後を総括的に理解する。

IV. 求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間

事前学習 (30分)：3学年時に学んだ講義を復習し，主要な疾患の病態生理を理解しておく。

予習用の資料を配信するので，必ず予習すること。

事後学習 (30分)：主要な婦人科疾患の診断に重要な自覚・他覚症状，検査法および検査所見を復習する。周産期に関しては，正常妊娠・分娩・産褥の経過を理解し，代表的な異常病態の鑑別と初期対応を説明できる。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1：反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ，知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)
2：ディスカッション，ディベート 3：グループワーク 4：実習，フィールドワーク 5：プレゼンテーション
6：その他 空欄：該当なし)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
1	7	21	火	1	性器の病変，悪性腫瘍 (子宮，卵巣・卵管，外陰・胞，絨毛癌)	産科婦人科 三 橋 暁	1
2		21	火	2	分娩・産褥の生理・病理	産科婦人科学 成 瀬 勝 彦	1
3		21	火	3	胎児の生理・病理，新生児	総合周産期母子医療センター 多 田 和 美	1
4		21	火	4	性機能系の生理，婦人科内分泌異常・不妊症	リプロダクションセンター 鈴 木 達 也	1
5		21	火	5	性器の炎症・性器の良性疾患 (子宮筋腫，子宮内膜症etc)	産科婦人科学 河原井 麗 正	1
6		22	水	1	妊娠の生理・病理	総合周産期母子医療センター 柴 田 英 治	1

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

カテゴリーⅡ試験で評価する。

VII. 医師国家試験出題基準（令和6年版）

必修5, 7K

総論Ⅲ-7-D

Ⅳ-1, 2, 3, 4

Ⅵ-7- G, H

Ⅶ-5- A, B, C

Ⅷ-5

各論Ⅰ-1, 2, 3, 4

Ⅷ-7, 8, 9, 10C

VIII. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
医師としてのプロフェッショナリズム 幅広い教養，利他の精神，医師に求められる品格を身につけ，豊かな人間性を育み，他の医療者と協調して，多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	○
能動的学修能力 医学知識・技能を主体的に学び，情報・科学技術を活用して，生涯にわたって自ら問題を発見し，解決することができる	◎
地域医療の理解 地域社会における医療の役割と，その中核を担う意味を理解できる	
国際性 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し，課題解決に向けて行動することができる	
リサーチマインド 研究活動における積極的な創造・発信に挑み，医学・医療の進歩に貢献することができる	

IX. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義・試験に対する質問がある場合は都度担当者が対応するので，秘書に連絡し日程を調整する。